

体育授業改善研修会(R4,11,14)

本研修会の目的は、「体づくり運動」の授業改善に係る研修を通して、教員の資質向上を図ることです。提案授業並びにその研究協議や実技を通して、児童に運動の楽しさや心地よさを味わわせる「体づくり運動」の在り方を実践的に学ぶことができました。体力・運動能力の低下傾向、肥満傾向児童生徒の出現率の増加、運動する子としない子の二極化など、様々な課題はありますが、研修会の内容は、こうした課題の解決にもつながるとともに、運動をすることが好きな子どもたちを増やすこと、ひいては生涯にわたって、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成につながるヒントにもなるはずで

1 提案授業

単元名 「体づくり運動」
(体ほぐしの運動、体の動きを高める運動)
授業者 奥州市立江刺愛宕小学校 教諭 多田 友紀
支援委員 奥州市立胆沢第一小学校 教諭 福舘 京子
奥州市立佐倉河小学校 教諭 堤内 賢太

2 授業改善の視点

- (1) 汎用性のある「体づくり運動」の単元の提案
- (2) 体づくり運動の特性「関わり合い」の充実
- (3) 高める体の動きの意識化を図る授業展開

3 成果

- 育成を目指す資質・能力をバランスよく配置した「体づくり運動」の単元の一例を提案し、研究協議を通して、授業改善の視点から、学びを深めることができた。
- 提案授業と実技研修の往還により、体づくり運動の授業の具体について、実感の伴う学びができた。
- 研修者から「実践につなげたい」という声が多く聞かれ、今後の授業改善につながる貴重な研修会になった。



新聞紙をつなげてコースをつくり「ドンじゃんけん」



フラフープが回っている間に、1周して自分のフラフープをキャッチ

4 助言から

- (若手県教育委員会 保健体育課 生駒大輔 主任指導主事)
- (1) 汎用性のある「体づくり運動」の単元の提案について
単位時間のもつ意味を単元のまとまりやつながりとして考えることが重要である。単元全体を見通した、目指す児童の姿を大切にしたい。
 - (2) 「関わり合い」の充実について
運動を通して自然に生まれる児童同士の対話から、よい関わり合いが見られた。教師がそれを見取り、全体に広げることが大切である。よりよい人間関係、学級経営が基盤になる。
 - (3) 高める体の動きの意識化を図る授業展開について
ねらいに迫るために教師が何をどう問うのが大切である。教師と児童の掛け合いから、ねらいに迫るためのポイントとなる言葉を引き出し、フィードバックや価値付けをすることが大切である。

～研修者の感想～

- *意図的な問いかけや関わり合うための手立て、価値付ける声のかけ方など、たくさんの学びがあった。
- *「体を動かす楽しさ」「他者と関わる楽しさ」を大切に授業と実技から、体づくり運動の重要性を感じる事ができた。
- *運動の楽しさや動きの巧みさへの気付きを伝える授業であった。運動の行い方を変化させながら、繰り返しねらいとする運動を行わせることの大切さを学ぶことができた。
- *自分の授業実践のヒントになることが多くあった。子どもの実態に合わせてアレンジしていきたい。

5 単元計画について

	1	2	3	4	5	6(本時)	7	8
	体ほぐしの運動			体の動きを高める運動				
0	1オリエンテーション 2 綱移動 新調の棒	1 早歩き二人 鬼ごっこ	1 木こりと りす	1オリエンテーション 2 巧みさ ポールを使って	1 乗らかさ ポールを渡して回して	1 巧みさ 綱移動 トンジャンクン	1 力強さ 手押し車	1 乗らかさ 巧みさ 力強さ 持続
3	3 風船バズ	2 縄跳び パンパー ICT	2 ゆったり のんびり	3 力強さ ロープ 引き	2 愛宕小の 架け橋	2 二人で対決	2 ICT 私をどこへ連れてって(陣巾)	1 じゃんけん すごろく
4	4 体 じゃんけん	3 フラフープ	3 フラフープ	4 乗らかさ じゃんけん 陣	3 持続 ころ鬼	3 持続・巧 オセロ ゲーム	3 持続 じがみ すこぶ	2 持続 ころ鬼
4.5	5 振り返り	4 振り返り	4 振り返り	5 振り返り	4 振り返り	4 振り返り	4 振り返り	3 振り返り (単元)
知識	① (カード)			② (カード)				
技能					③ (観察)	④ (観察)		
思考 判断 表現		① 観察・カード					② 観察・カード	
主体的・学 習に取り組 む態度	⑤ 観察・自主研 究		④ 観察・カド					① 観察・カド

体ほぐしの運動及び体の動きを高める運動の導入時に、大切にすることや言葉を板書に位置付けながら、オリエンテーションの充実を図ります。

ICTにより動きを可視化することで「気付き」を促すことも効果的です。

単元全体として、ペアやグループで行う運動を多く選定しています。仲間と「関わり合い」、運動を通じた「気付き」を共有しながら展開する学習を意図しています。

評価の焦点化、重点化を図りながら、無理のない評価を計画的に行うことが大切です。

高める体の動きを構造的に配置しています。また、単位時間の中で段階的に運動強度が上がるよう構成しています。

単元を、ブロックをイメージした作りで構成しています。各校の実態や授業者のねらいに合わせて、行う運動を変更することで、オリジナルの単元がすぐに完成します。

音楽の効果的な活用も学習指導要領に明記されています。

単元の充実を図るために同じ内容を2時間続けて行う構成も可能です(例:巧みな動きを高める運動(6時間目)を2時間扱いにし、厚みをもたせる)。

1つ1つの運動の行い方については、本研修会参加者に参考資料をお渡ししています。各校の実技伝講会等にご活用をお願いします。